

しんせう



第 88 号

2016 年 6 月 日本野鳥の会三重

<http://miebird.org/>

鳥をおぼえる

津市 平井正志

探鳥会で「どうすれば鳥をおぼえることができますか？」と聞かれる時が時々ある。私は「自分で図鑑を調べて覚えることです」と迷いもなく答える。目の前にいる鳥、それと図鑑で描かれた鳥の絵、これは全く違うものであるが、それでもそれなりに区別できるように描いてある。私は鳥を見始めた時には誰にも教えて貰わなかった。その頃、新発売された高野伸二の図鑑と望遠鏡の中の鳥とを何度も繰り返し見た。すると、それなりに自分で識別点が見えてくるものである。しかし、シギの類は幾度みても、どちらなのか分からないこともあった。こうやって覚えた識別は決してわすれない。

探鳥会でその道のベテランから識別点を色々教えられても、自分で会得したものでない情報はすぐ忘れてしまうのではなからうか？それも、1種だけでなく、5種も10種もの識別を1回の説明ですべて頭に入れるのは至難の技であろう。受験勉強と同じである。むしろ、自分で識別できるようになるのが鳥見の楽しみのひとつなのではなからうか？探鳥会ではそれを手助けする機会と考えてはどうであろう。

受け身の知識から、自分で積極的に得る知識へ、体験へ、これは膨大な量の情報が行き交う今日の社会で鳥見以外でも大切な点であろう。珍しい鳥がいるからと教えてもらい、その写真を撮りに行くのも一概に否定はしないが、もっと積極的な楽しみ方があるであろう。誰も見ていない発見が野外での観察ではよく起こる。

鳥をどこで見るか？どう見るか？何を見るか？長年鳥を見ている人はそれなりに自分のフィールドを持っていて、そこについては誰よりも詳しい。他の人には気がつかない、ごく小さな変化でも、見つけてしまう。

オオルリやキビタキなど夏鳥の情報が行き交うこのシーズン、自分なりの鳥見のスタイルを確立してはどうであろう。



ホトギス

目次

- 鳥をおぼえる-----2
- 表紙の言葉-----2
- キツツキの話-----3
- カワラヒワの巣-----5
- シギ・チドリ類の羽衣の変化 ツルシギ-----6
- 3月観察記録-----10
- 夏は来ぬ-----10
- 初心者講座-----11
- 講習会及びリーダー研修会について-----12
- 研修会と安西先生とのバードウォッチング-----15
- 事務局だより -----16
- 会報のウェブ上での公開について-----17
- 日本野鳥の会三重 2016 年度総会-----18
- 今後の探鳥会予定-----21
- 野鳥記録-----21
- 探鳥会報告-----24
- 編集後記-----28

表紙の言葉

西村 泉

4月のある日、伊勢のおはらい町を歩いてみた。通りには、今年もたくさんのツバメが来ていた。ツバメは、巧みに翼を操り華麗な飛行を繰り返す。見ていて飽きない。すでに店舗の軒下につくられた巣で、抱卵しているツバメもいた。ツバメの巣がある店舗は、大半が食べ物を扱っているにもかかわらず、フン受け用として巣の下に板を張り付けたり、寒冷紗をハンモックのようにつるしたりとそれぞれ工夫している。とくに赤福では、正面入り口に「つばめの子育てにご協力ください」という立派な看板まである。町全体が、ツバメの子育てをあたたく見守っている。日本広しとはいえ、こんな町はそう多くないはずだ。伊勢っ子の一人としてこんな嬉しいことはない。まだ「おはらい町」にきたことがない人に言いたい、「一度伊勢のツバメを見においなく」と。

キツツキの話

津市 平井正志

その1:キツツキの分布:

キツツキは世界のほぼ全域に棲息しているが、全くいない場所が幾つかある。むろん南極大陸やサハラ砂漠にキツツキがいないのは理解できる。しかし、木があり森もあるオーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニアにもいない。さらにマダカスカ島、アイルランド島にもいない。オーストラリアなど大洋州とアジアの陸生動物分布の境界はウォーレス線と名付けられている。たしかに陸生の哺乳類はヒトとそれに伴われて移ったイヌ以外にはウォーレス線の東側、オーストラリア等にはいない。反対にカンガルーなど有袋類はウォーレス線の西側、インドネシアにはいない。

翼のない哺乳類は海を渡れないため、いないのはわかるが、翼があり、飛ぶことのできるキツツキがなぜ到達できなかったのだろう。ただし、セレベス島はウォーレス線の東側になっているが、何種かのキツツキがいる。これが東端である。キツツキの多くが渡りをせず、同じ場所に年間を通じてとどまる。熱帯や温帯のものほどその傾向が強いようであるが、進化の長い年月の間に分散し、定着することができなかったのか不思議である。

その2:キツツキの渡り

三重県で見られるキツツキのうち、アオゲラ、オオアカゲラ、コゲラは年間を通じてほとんど移動しないようである。しかし、アカゲラは冬には県内の平野部の各地で見られるが繁殖期に見られる場所は少ない。短距離であっても移動しているようである。北海道の最南端、白神岬ではアカゲラが毎年秋に多数かすみ網で捕獲され、足環と付けて放鳥されている。北海道のアカゲラは秋本州へ渡り越冬する個体がかかなりいるようである。その他のキツツキはほとんど捕獲されず、渡りは顕著ではない。アカゲラはヨーロッパから極東まで棲息するがやはり渡りをする個体があるとのことである。

渡りをするキツツキ、しないキツツキ、冬に食物が鍵となるのだろうが、渡りをしないキツツキには冬を乗り切る奥の手が何かあるのだろう。

その3:何をたべるのか

キツツキは主に木の幹に潜む昆虫や昆虫の幼虫を食べる。カミキリムシの幼虫は木の幹深くに潜り込んでいるが、脂肪がたっぷり栄養満点である。苦勞して取り出すだけの価値があるのだろう。それ以外にも地上に降りてアリを良く食べる。キツツキは木の実も食べる。特にアオゲラは良く食べるようである。クルミの実まで割って食べるというが、現場を見たことがない。どのようにして割るのだろうか？キツツキの食べ物で変わったものが樹液である。普通のキツツキも多少は樹液を飲むという。しかし、北アメリカには樹液に依存する率が高いキツツキが数種あり *Sapsucker* との名前をもらっている。Sap は樹液 Sucker は吸う者。むろん虫もたべるが。アメリカへは何回か行く機会があったが、残念ながら、この類を見たことがない。

その4:巨大なキツツキ

日本にいる最大のキツツキは北海道に棲むクマゲラである。全長は 50 cm コクマルガラスは 32 cm なのではかに大きい。実はキタタキという巨大なキツツキがかつて対馬にいた。クマゲラと似るが胸から下が白い。残念ながら、日本では絶滅、韓国でもほぼ絶滅と言われて久しい。しかし、この種は東南アジアがホームグラウンドのようで、そこでは今でも棲息しているという。

北アメリカにも巨大なキツツキがいる。Pileated Woodpecker (カンムリキツツキ)。コーネル大学に滞在した時、大学の構内でこのキツツキを見た。赤く大きな冠羽、黒い体。黒と白の顔。迫力のあるキツツキであった。北アメリカにはさらに Ivory-billed Woodpecker というのがかつてはフロリダなど、北米東南部に棲息していた。しかしこのキツツキも残念ながら絶滅したようだ。しかし、2000 年代初頭に発見したという報告があり、今なおどこかに少数の個体がいるのかもしれない。もう一種 Imperial Woodpecker というのがメキシコにいたがこれも絶滅したようである。

かつては広大な森林に覆われていた北アメリカ大陸もヨーロッパからの入植により、森林が次々と伐採された。もう、巨大なキツツキが棲む森は多くないのである。

その5:キツツキの足

キツツキの足は木の幹に止まれるようにしくまれて

いる。鳥類の趾(あしゆび)は4本で、3本が前、1本が後である。しかしキツツキでは前の3本のうち、外側の1本が横に開き、大方後側にまで回る。これを対趾足という。この1本が重要で両足のその外側の趾で木の幹を抱え込むようにして体を安定させている。巣穴を掘る時も、餌を掘り出す時もこの足がなくてはなんにもならない。

ところで、後の1本はどうなっているのか？キツツキの写真を見ても後趾が写っている写真はあまりない。この後趾は元々写りにくい位置にある上、かなり短くて、中々写らないようである。バンディングで捕獲してみるとこの趾が短いのがよくわかる。短いだけでなく、あまり働いていないのではないかと思う。

ミュビゲラというのが北海道で稀に記録されるが、このキツツキはこの後趾を欠く。後趾を欠いても、体を支えるには問題が生じないようである。



Pileated Woodpecker

その6:コゲラ

コゲラは三重県各地でごく普通に見られるキツツキである。全国に分布し、アカゲラなどとおなじアカゲラ属 *Dendrocopos* に分類されている。しかし、最近のDNA塩基配列にもとづくキツツキの分類の研究では、アカゲラやオオアカゲラとはやや縁が遠く、中国や台湾から、インドシナ半島、ボルネオ島にまでに分布する Grey-capped Woodpecker“ハイガシラコゲラ”などと近縁とされている。このグループには数種があり、

セレベス島に分布する種もある。どうやらコゲラは熱帯のキツツキの仲間と言えそうであり、温帯北部をホームグラウンドとするアカゲラ、オオアカゲラとは別の系統と考えてよさそうである。ギーギーと聞こえる声は「寒い、寒い」と言っているのだろうか。

その7:ノグチゲラ

ノグチゲラは沖縄本島の北部、通称“やんばるの森”だけに棲む大型のキツツキ。明治年間にイギリス人商人によって発見された。その羽色から他のキツツキとは縁が遠い独立の *Sapheopipo* 属に分類されてきた。最近公表された日本産鳥類リストでも日本の鳥学会はノグチゲラを独立の *Sapheopipo* 属としている。

しかし、最近のミトコンドリア遺伝子の分析からアカゲラなどが属するアカゲラ属に属するとする考えが一般的になっている。羽色がやや類似した赤っぽい色をしていて、中国南部に棲む Bay Woodpecker とは類縁が薄いとの結果が得られた。最近の核遺伝子の解析でも同じようにアカゲラ属 *Dendrocopos* のうち、特にオオアカゲラと近縁であるとの結果が出ている。

たしかにオオアカゲラは南の個体ほど色が濃くなり、奄美諸島に棲む亜種オーストンオオアカゲラはかなり茶色っぽい色をして本州のオオアカゲラとは別ものといった感じである。オオアカゲラから派生した種と考えるのが順当だろう。

おまけ

やはらかに柳あをめる
北上の岸辺目に見ゆ
泣けとごとくに

石川啄木の啄木とはキツツキのことである。

参考文献:

- H. Winkler, W., N. Kotaka, A. Gamauf, F. Nittinger, E. Haring. (2005) On the phylogenetic position of the Okinawa woodpecker (*Sapheopipo noguchii*). *J Ornithol* (2005) 146: 103–110.
- J. Fuchs, J.-M. Pons (2015) A new classification of the Pied Woodpeckers assemblage (*Dendropicini*, *Picidae*) based on a comprehensive multi-locus phylogeny. *Mol. Phylogenet. Evol.* 88: 28–37.

カワラヒワの巣

四日市市 笹間俊秋

3月の中旬になり私の自宅周辺もようやく春が来たという気候になってきました。鳥たちも餌が少ない冬を乗り越え虫たちがたくさん出てきて繁殖の時期を向かえ騒々しくなっています。朝、自宅のポストに入った朝刊を取りに行くと電線の上にカワラヒワが止まり鳴いていることが多くなっていることに気が付き近くで繁殖するかもしれないと考えていました。

4月上旬になり車を駐車場に止めて自宅に入ろうとしたところ、椿の木の中から雛の鳴き声が聞こえてきました。もしかしてと思い恐る恐る中を覗いて見ると予想通り巣があり、材料はどこで調達したのかビニールの紐が多く使われていました。巣の形状をネットで確認したところカワラヒワの巣とよく似ていたので先月から周辺で囀っていたカワラヒワで間違いありません。周囲に親鳥が居ないか確認して巣の写真を撮ってみたところ巣から顔を出している雛が2羽確認できました。

雛は顔だけしか見えないためどれだけ成長しているのか分かりませんでした。頭の産毛が抜けかけているので孵ってかなり経っているようです。おそらく今までは雛も鳴く力が弱く周囲に気づかれなかったのだと思います。それから外出から帰ってくると雛の成長を確認するのが楽しみになりました。

カワラヒワの生態を調べてみると、通常ツバメやスズメなどは頻繁に虫を捕獲し雛へと運びますがカワラヒワは回数が少なく、多くの虫を口の中に貯めて与え1日10回ほどしか運ばないそうです。そのため人間に発見されにくいようです。自宅に居るときによく注意して雛の声が聞こえないか意識してみたら早朝7時前によく雛が鳴いているのがわかりました。親鳥が餌を運んでこない時は雛も静かにしており、本能的に人間や猫などの天敵に見つからないようにしているようでした。

4月中旬になり雛もかなり成長してきたなと思い写真を撮っていました。その日は普段より少し長めに観察していたところ、ガサガサと音がしたと思ったら雛が木から飛び出していました。人間に見られているのが

怖かったのでしょう。かなりあせりましたが気が付くと電線の上にはいつの間にか親鳥がとまっており雛の様子を伺っていました。そして雛を見ると羽もしっかり生え揃っていて十分飛べるようにはなっており巣立ちを迎えても問題ないようでした。そうなる私と雛の周囲にいると親鳥が雛に近づけないため後のことは親鳥に任せて家の中に入って干渉しない方が良くと思い、その日は巣に近づきませんでした。



翌日、巣を確認すると残っていた1羽も巣立ちしたようで2羽ともいませんでした。結果的に私のために巣立ちが早まってしまったかもしれませんが、無事成鳥に育ってくれることを願い、また次の世代へ命をつないでいってほしいと思っています。

シギ・チドリ類の年齢・季節による

羽衣の変化

一連載第4回 ツルシギー

津市 今井 光昌

ツルシギは繁殖地と越冬地を行き来する旅鳥で、渡りの中継地である。松阪市曾原大池では春と秋に観察することができます。春のシギ・チドリ類の渡りでは、ツルシギが最も早く渡来することから、ツルシギは春の使者と呼ばれています。普通は3月上旬に渡来しますが、2月のこともあります。ツルシギの観察を始めた2005年から2016年の12年間、毎年渡来していますが、2月の渡来は2006年2月19日と2010年2月24日の2度しかありません。その年の最大数が一

度に渡って来ることはなく、単独或はごく少数の群れで随時到着します。2010年を例にとると、2月24日1羽、3月12日3羽、3月18日2羽、3月20日3羽、4月2日に2羽が到着し、11羽が4月中旬まで滞在しました。渡来数は秋より春の方が多く、秋は幼鳥ばかりで成鳥は渡来していません。三重県での越冬も知り得る限りありません。

ツルシギの羽衣の変化

ツルシギは季節による羽衣の変化が極端です。特に夏羽の変化は劇的で、見事なまでに黒くなります。冬羽の上面は灰褐色で下面は白いですが、夏羽は上面だけでなく下面も黒くなり足色も黒味を増します。尚、翼下面と背は年齢に関係なく白いです。



図1 幼羽 2007.10.20



図2 第1回冬羽 2009.11.23



図3 成鳥冬羽 2015.03.13



図4 成鳥夏羽 2010.05.08



図5 幼鳥 2007.10.20

肩羽・雨覆・三列風切の軸斑は黒褐色で小さな白斑が多く、頭部から胸は褐色縦斑、脇から腹部に褐色横斑があります。冬羽は淡い灰褐色で、幼羽は褐色味が強いので、成鳥冬羽に比べると幼鳥は体全体の暗色味が強いです。



図6 第1回冬羽に換羽中 2014.11.24

背・肩羽に灰褐色で白い羽縁のある冬羽が出ています。頭頂も冬羽が出ているように見えます。頭頂・背・肩羽が部分的に冬羽に換羽していますが、幼羽も多く残る第1回冬羽に換羽中の羽衣です。



図7 第1回冬羽 2013.12.23

顔から下面の白味が強くなり、眉斑は白く明瞭です。背・肩羽は灰褐色の冬羽に換羽しています。雨覆の一部も冬羽に換羽しています。幼鳥から第1回冬羽の換羽は部分換羽で雨覆や三列風切に幼羽が残ります。



図8 第1回夏羽に換羽中 2012.04.05

小雨覆の擦れの激しい羽は幼羽と考えられます。冬羽であれば4月5日で原形を失うほど擦れていないのが普通です。第1回夏羽に換羽中の若鳥と夏羽に換羽中の成鳥の小雨覆の擦れの違いを見るため、図9、図10で同じ日の画像を拡大しました。



図9 第1回夏羽に換羽中 2012.04.05



図10 成鳥夏羽に換羽中 2012.04.05



図11 第1回夏羽 2008.05.20

図9の若鳥と図10の成鳥を比べると図9の激しく擦れた小雨覆は幼羽で、第1回夏羽に換羽中と判断できます。黒い夏羽と灰褐色の冬羽と擦れた幼羽が混在しています。図11は足色も黒くなった5月20日の夏羽ですが、頭部から下面に白い羽が混じります。成鳥夏羽では下面はほぼべた黒になります。上面の黒い羽は夏羽で、褐色の羽は幼羽と冬羽と見



図12 成鳥冬羽 2012.02.24

成鳥冬羽は頭部から上面が灰褐色で白い羽縁があります。頬からの下面は白く顔から胸に褐色の縦斑があり、眉斑は白いです。幼鳥は上面の褐色味が強く、脇から腹部の褐色横斑により体全体が暗色に見えますが、成鳥冬羽は幼鳥に比べ上面の褐色味が弱く腹部も白いため体全体が淡く見えます。



図13 成鳥夏羽に換羽中 2011.04.17

頭部からの上・下面に黒い夏羽が出てきた換羽中の成鳥です。夏羽への換羽が進むと体全体が黒くなります。ツルシギは動物食です。何を食べているのか特定は難しいですが、ミズや小魚の捕食シーンを撮影できることがあります。



図 14 ♂成鳥夏羽 2011.05.11

夏羽は上面に白斑が散在しますが体全体が黒く、足まで黒くなります。眼の周囲の白斑が目立ち、嘴は細長く下嘴の基部半分ほどに赤味があります。夏羽に限っては他のシギとの見分けが容易です。特に♂成鳥夏羽の黒色味は強く、頭部から下面はべた黒になります。完全な夏羽に換羽すると雌雄の識別は簡単ですが、換羽途上の羽衣だと雌雄の識別や成鳥と若鳥の見分けが難しくなります。



図 15 ♀成鳥夏羽 2011.05.14

♀成鳥は♂成鳥に比べ白い斑や白い羽縁が多く、特に脇・腹・下尾筒に白い斑が多いです。黒色部も♂より褐色味があります。

最後に 普段は水辺を歩き回って餌を探しているシギ類も泳ぐ時があります。中でもツルシギは泳ぐことを厭わず、泳いで移動したり餌を探したりもします。アカアシシギやオオハシシギなどが採餌できない水位でも足が長いこと、泳ぐことで餌を捕ることが出来ます。冬

羽の地味な羽衣から全身が黒くなる夏羽に完全に換羽するまで滞在する渡来地は三重県では曾原大池しかありません。渡来数は年々減少し、2012年には4羽にまで減りましたが、2013年以降は9羽から10羽で推移しています



図 16 泳ぐツルシギ



図 17 泳ぎながら採餌

曾原大池 春の渡来数

2004~2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
30-40羽	27羽	15羽	9羽	4羽	10羽	9羽	9羽	9羽

3月観察記録

鈴鹿市 前田 守

3/6(日)石垣池探鳥会終了後カワウとウナギの死闘を観戦する。カワウは獲物の大きなウナギに巻きつかれ水中に引き込まれる状況であった。なかなか決着がつかず最後まで見届けることは出来なかった。



近くの寺家池ではミサゴが狩りをしていた。写真③
停空飛翔を続けるが結局あきらめて飛び去った。
その間十数羽のオオバンの群れは一か所にかたまつて警戒をしていた。



3/28(月)鼓ヶ浦堀切川水門付近
14:50～15:30 干潮時の干潟 定点観察
ユリカモメ29、コサギ3、ヒドリガモ4、カワウ5、セグロカモメ2、マガモ♂♀2、カルガモ2、アオサギ1、ハシボソガラス1
3/28(月)鼓ヶ浦海岸
15:30～16:00 海の家付近 定点観察
ウミアイサ5
ホシハジロ1 スズガモ2 セグロカモメ5 ユリカモメ4
ハシボソガラス2

夏は来ぬ

鈴鹿市 前田 守

昔々その昔、鈴鹿川が度々氾濫し形成された湿地帯をご先祖様が開いて水田と成した。しかし近年休耕田となり放置され、やがてアシが茂る草叢となりオオシキリ等の棲家となる。

休耕田の増加と共にオオシキリの鳴き声がよく聞かれる。

毎年4月末になると、我家のそばの休耕田で早朝から深夜までご近所迷惑なオオシキリの大鳴きが聞こえ始める。夏だ。

オオシキリのさえずり初聞き日(鈴鹿市白子町)

- 2006 4/末
- 2007 4/30
- 2008 4/28
- 2009 4/22
- 2010 4/25
- 2011 4/28
- 2012 4/19
- 2013 4/26
- 2014 4/28
- 2015 4/30
- 2016 4/19

「ギョギョッシ」と鳴きて我家の 夏は来ぬ



初心者講座

津市 平井正志

スズメとホオジロ

スズメは町中でよく見る鳥、だれでも知っているはず。ホオジロもよく見る鳥です。しかし、スズメとよく似た茶色っぽい色合い。スズメをよく見てみよう。かなりデブッチョな鳥で、頭が異様に大きい。頬には黒い奴鬚(やっこびん＝江戸時代の武家の家来の奴がつけていたもの)がある。ホオジロの頬は白くなく、黒い。ホオジロと名前を付けた方が似合っている。しかし、スズメの奴鬚とは違う。ホオジロは飛んだ時、尾羽根の両側、外側の白い羽根が目立つ。スズメの尾には白い模様は一切ない。

次にいる場所が違う。スズメは町中でもよく見る。人家の屋根の隙間や戸袋に巣を作る。しかし、人家の無い場所、山の中などではほとんど見ない。ホオジロは逆に町中、商店街や大きな駅前で見ることはない。東京や大阪の繁華街で見るとは絶対にない。農村、すこし山手に近い場所で見るとスズメのように畑や田圃で餌をとることはあまりなく、田畑の周辺の草地や藪で餌をとっていることが多い。まずはこのスズメとホオジロをしっかり区別しよう。



ホオジロ



スズメ

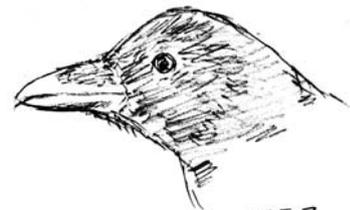
カラス類

カラスほど、どこにでもいる鳥は少ない。町中でも、また、相当山奥でも見ることがある。第一、大きくて、うるさい。ところがこのカラス、実はハシボソガラスとハシブトガラスの2種に分類されている。カラス同士はこれをしっかりとわきまえていて、2種間の雑種はほとんど

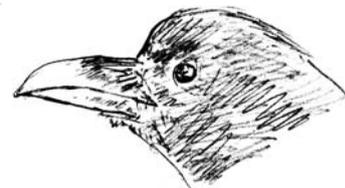
できないようである。三重で普通に見かけるのはハシボソガラスがほとんどであり、少数のハシブトガラスが交じる。ところが、東京の町中にあるカラスはなぜかほとんどがハシブトガラス。

この2種は顔とくちばしが違う。おでこでくちばしの先端が強く曲がっているのがハシブトガラス。カラスと思ってバカにしないで、よく見てみよう。鳴き声もちがう。カアカアと澄んだ声でなくのはハシブトガラス。ハシボソガラスはガアガアと濁った声である。この2種が識別できれば、もう、初心者ではない。ベテラン会員もよく見間違え。

この2種以外にも、黒いカラスはコクマルガラス、ミヤマガラスなどがあるが、いずれも冬鳥で、三重県で見る機会のごく希れである。また、山に棲むカケスもカラスの仲間であるが、カラフルで、とてもカラスとは思えない。ジャー、ジャーと濁った声でなく。



ハシボソガラス



ハシブトガラス

シラサギ

シラサギという種はない。白いサギはコサギ、チュウサギ、ダイサギ、アマサギであり、それ以外に海岸に棲むクロサギで白い個体、稀に見られるカラシラサギがあるが、ここではこの2種を除外しておく。体の大きさはダイサギが最も大きく、以下チュウサギ、コサギ、アマサギと小さくなる。アマサギの成鳥は夏羽で亜麻色の羽毛が入るが、それ以外の時期は全身白い。また、首は他のシラサギとくらべて、短い。チュウサギのくちばしはコサギのそれと比べて短いが野外では分りにくい。

これらのサギは夏羽と冬羽でくちばし、目先の色が変わる。以下にそれを図で示した。ダイサギの目先は繁殖期に青緑色になるが、中には黄色のままの個体

部財団との協同企画のご紹介等の発表も好評でした。夜の親睦会では、講師を交えて楽しく歓談できました。前日までの雨が上がり、心配していた天候にも恵まれたかと思いきや、2日目午後の一般参加者を募っての実践探鳥会では大風に見舞われ、内心焦りましたが安西講師のスキルに救われて、案内のお手本を見せていただくことができました。

事後の参加者アンケートには、今回のようなリーダー研修会を定期的に開催してほしいという意見が少なからずあり、リーダーさんのニーズを感じました。なかなか大変ですが、必要であると思います。また、研修会の内容を活かした観察会にできるよう、リーダーをフォローしていくこと、リーダー個人の資質に頼るだけでなく、会員増加・定着につながるような魅力ある探鳥会の企画を考えていくことが、会としての今後の課題になるかと思えます。

準備不足や手際の悪さで多々ご迷惑をおかけしましたし、独断専行になってしまった部分もありましたが、事故もなく終えることができ、両講師、理事スタッフ、なにより参加者のみなさんのご協力に厚く感謝申し上げます。参加できなかったリーダーさんも、リーダーに興味ある会員さんも、次回はぜひご参加ください。

まとめ・文責:小坂里香

研修会 1 日目の感想

菰野町 矢田栄史

3月19日から1泊2日の日程でリーダー研修会が実施された。三重郡菰野町 三重県民の森「ふれあいの館」には、本部から2名の講師をお招きして県内各地から22名の参加者の顔があった。

この日のテーマは、探鳥会を魅力的にし、会員増加を図るためのヒントということで、本部普及室の堀本氏より、他支部の探鳥会の状況の説明があり、今後さらに会員を増やすにはどうした取り組みが必要か？あるいはどのような企画をしたらよいか などについて小グループにわかれて話し合い、発表したりした。どの支部でも同じような悩みや苦労があることがよくわかった。

そして湯の山温泉の希望荘に会場をうつしてお楽しみの懇親会である。初めて顔をあわせる会員どう

し、自己紹介では各自の鳥自慢？や日頃の観察のことなどの披露、また名物講師の安西さんのまわりには数人が集まり、縦横無尽な会話がとびかっていた。

翌日の研修を夢みつつ研修初日はしずかに、しかしアルコールもはいつて熱くふけていくのであった。

しかし平均年齢たかいなあ、と実感した次第。

研修会 2 日及び北勢中央公園探鳥会の感想

四日市市 阿部 裕

研修会の2日目は、午前中は三重県民の森で研修と実地指導、午後は北勢中央公園で一般参加の探鳥会という充実した内容だった。

朝から安西先生のお話を聞き、後ろについて歩いたわけだが、もっとも印象的だったのは〈野鳥以外の話題が豊富〉という点である。安西先生のお話は、野鳥だけでなく、地球と生命の歴史、植物の冬芽や葉の付き方、ジョロウグモの卵囊、昆虫の越冬など多岐にわたった。

こういった自然・生き物についての幅広い知識を持っておくと、探鳥会のリーダーをする上でも何かと役に立つと思う。探鳥会では参加者にできるだけ鳥を見せてあげたいが、そう都合よく鳥が出るとは限らないし、天候によっては探鳥が困難な場合すらある。

実際、北勢中央公園で行われた午後の探鳥会はスコープが倒れるほどの強風に見舞われ、まともな探鳥にならなかった。そ藪のような状況であっても、植物・昆虫などの観察や解説を織り交ぜれば、少しでも探鳥会を盛り上げることができるし、場合によってはそれが参加者の新たな興味の扉を開くことにつながる。またそのような野鳥以外の生き物の話を通じて、人間や野鳥も含めたすべての生き物が相互に関連しあって生態系ができており、その生態系が存する環境そのものを守らなければならない、という日本野鳥の会の理念を参加者に再認識してもらえるかもしれない。

探鳥会の主目的が野鳥の観察と理解であることはもちろんだが、野鳥以外の生き物に目を向けてもらうことも大切なのだ、ということを経験に感じて改めて感じた。刺激多く、楽しい二日間だった。

リーダー研修会アンケートまとめ

講習会(探鳥会運営について:三重県民の森「ふれあいの館」室内講習 講師 堀本理華氏)

評価(5段階)	1	2	3	4	5	合計
運営について	1			4	11	16
内容について	1		1	2	12	16
ご意見	<p>財団の話をきいてから話し合う時間と、こうしたらいいのでは、というを出す時間をとったのはいいが中途半端だったと思う。</p> <p>たいへん勉強になりました。</p> <p>もう少し時間的余裕があれば良かったが、内容はためになった。</p> <p>心細く参加したが、充実していて大満足でした。ありがとう。</p> <p>リーダー研修は初めてです。とても参考になりました。</p>					

歓迎会・親睦会(湯の山温泉「希望荘」において飲食・歓談)

評価(5段階)	1	2	3	4	5	合計
運営について	1		1	2	11	15
内容について	1			3	11	15
ご意見	<p>楽しいひと時でした。色々な話が聞けた。</p> <p>料理がもっとおいしいとよかった。</p> <p>お話面白く本当に楽しかった。</p> <p>リーダー研修は初めてです。とても参考になりました。</p> <p>羽根をたくさん見せてもらってうれしかったです。</p>					

研修会(リーダー研修:県民の森にて室内及び野外実習)

評価(5段階)	1	2	3	4	5	合計
運営について	1			1	18	20
内容について	1			4	15	20
ご意見	<p>色々な探鳥会のテクニックを教えていただいてよかった。</p> <p>もう少し外で見る時間が欲しかった。</p> <p>知識より楽しさを伝えるようにしたいです。</p> <p>クモの巣?探しの話を探鳥会で関連付けしていただくような鳥にまつわる自然のふれあいがとても良かった。</p> <p>知識はないけど10の知識より1つの笑顔を心がけます。</p> <p>たいへん勉強になりました。</p> <p>大いに役に立ちました。</p>					

自由意見

Q:今後どのような研修会を希望しますか?

- 今回のような研修会を隔年くらいに開催してほしい。(ニューリーダーの養成を主にして)
- リーダー研修会、リーダー養成研修会、地区交流研修会
- 最新鋭の研究内容の紹介
- 鳥の生態や木の実などの勉強など
- 調査研究

Q.:研修会で得たことを今後どのように生かしますか?また研修会の感想などご自由に…

- 観察会等で使いたい。
- 鳥だけでなく自然のサイクルの中で、いろいろなものに目を向けていくことが大切だと感じた。
- 身近なものにも不思議が一杯。鳥がいなくても何とかかなりそうに思えた。
- 野鳥の会に入るメリットは何か?と聞かれてもこれまでは答えにくかったが、今後はうまく答えられると思う。
- 観察会の担当を長年やっています。いつも思うことは、参加者に継続して観察をしてほしいということ。参加者の喜んでる姿を見てよろこぶ基本に戻ることを教わりました。事前準備から当日スタッフのみなさんお疲れ様でした。
- せめて、5年に1回は研修会を開いたら、今よりリーダーは多くなると思います。
- 運営について、もう少し事前に役割を徹底して分担した方がよいのでは?(一部の人に負担がかかり過ぎたように思いました。)
- 鳥以外の自然観察を鳥につなげて、大きく自然と対する観察会のやり方が強く印象に残りました。これからこのような姿勢で広く興味を広げていくように、自分のフィールドワークで観察をしたいと思う。係の方ありがとう。
- リーダーの心構え。ダジャレ等をまじえればおもしろそうです。もっと勉強します。
- 今日学んだことを思い出して楽しんで案内したいと思います。もっと、身近な鳥のことを勉強しなければならぬと感じました。

=====
**改めて勉強になった野鳥観察研修会と
安西先生とのバードウォッチング**

四日市市 川瀬裕之

3月19,20日の両日、三重県民の森と北勢中央公園を舞台に2日間にわたり「野鳥観察研修会と安西英明さんとバードウォッチング」が開催されました。

3月19日午後 2時から菰野町にある三重県民の森ふれあいの館にて野鳥観察研修会が始まりました。午前中の仕事が長引きギリギリ14時前にふれあいの館に到着。中に入ったら全席一杯の状態でした。

14時から日本野鳥の会 本部から主席研究員の安西英明さんと普及室 普及教育グループから堀本理華さんのお二人を迎えて初めは堀本さんによる「探鳥会で会員を増やすにはどうすれば良いか?」を考



えるレクチャーです。どこの支部でもやはり会員の減少は問題になっており、三重県も例外ではありません。初めて訪れた野鳥観察初心者の人を魅力的にするにはどのような探鳥会にすればいいのか。そのヒントになる事を他支部の事例を交えて判りやすくお話をしていただきました。その後は隣の人とグループになり、探鳥会の問題点を話し合いました。探鳥会中の写真撮影に夢中になりグループの足並みが遅れるといった事案が出されていました。

その後は宿泊する方は湯の山にある希望荘へ移動して、安西先生や堀本さんを交えて親睦会が開かれました。参加者の自己紹介をしたのですが、安西先生の自己紹介はユニークで面白かったです。料理も大変おいしく、楽しく1日目を終える事が出来ました。



翌日はもう一度三重県民の森のふれあいの館に移動して安西先生のお話を聞いてから森の中へ出かけま

した。実際の観察会を実施する時のポイントを色々教えて頂きました。野鳥だけに限らず、植物や昆虫などにも大変お詳しく、それらを上手く絡めてお話するので大変興味深く、話に入り込んでいる自分に気づきました。人を引付ける魅力的な手話術が大変勉強になりました。

その後はもう一度ふれあいの館に戻り、まとめを行いました。2日間に渡る研修を終えて、みなさんそれぞれヒントになるモノを得たと思います。

昼食を皆で食べた後、四日市市の北部にある北勢公園に移動して安西先生とバードウォッチングの開始です。

天気はよかったですのですが強風で鳥が殆ど見られず残念でしたが、安西先生のトークが野鳥だけではなく、植物に関してもおもしろおかしくお話され非常におもしろかったです。最後に参加された皆さんと安西先生を中心に記念撮影をして解散し、帰路につきました。

研修に参加されたみなさま、スタッフのみなさま、大変お疲れ様でした。次回もこの様な企画を楽しみにしております。

事務局だより 活動の記録(2016年2月～5月)

- 2/24 会報・第87号「しろちどり」発行・発送作業
- 3/6 第4回理事会
- 3/19～20 野鳥観察研修会
- 3 委託調査まとめ作業
- 3 決算作業
- 4/12 ソーラーパネル規制について、県みどり共生課 朝倉課長との話し合い(平井・石原)
- 4/20 メナード青山リゾートへ(企画の打ち合わせ)
- 4/23 津市白塚海岸へ(野鳥保護の看板設置の件)
- 4/30 しろちどり編集についての打ち合わせ(編集部)
- 5/3 2015年度会計監査
- 5 総会準備

事務局からのお願い

○もし密猟を見かけたら

野鳥は、許可なく捕獲や飼養ができません。もし密猟現場を見かけたら、密猟者に声をかけないで、すぐ現場を離れてください。身の安全が確保できる場所で、110番か最寄りの警察(生活安全課)へ通報してください。また「怪しい」と思っても密猟だという確証がない場合や、民家の中から野鳥の声が聴こえたり、ペット店での販売を目撃されたら、まずは事務局か、「密猟110番」(検索)へご連絡ください。

○ヒナを拾わないで

「ヒナを拾ったけれど、どうすればいい？」という連絡をいただくことがあります。ヒナの大きさにもよりますが、保護を必要としないヒナがほとんどです。巣立ちをしたヒナは、うまく飛べません。

しかし、そばには必ず親鳥がいて、ヒナの面倒をみているはずで、人がヒナを保護しようと近づきすぎるために親鳥が来られないのかもしれませんが、それでもネコなどがいて心配でしたら、近くの木のかげなどに止まらせてあげてください。

また地上の巣で子育てする野鳥もいます。すぐにその場を立ち去りましょう。

日本野鳥の会三重 2016 年度総会

日本野鳥の会三重 2016 年度総会は 5 月 29 日 三重県教育文化会館(津市)で行われました。

2015 年度活動報告、および 2016 年度活動計画が承認され、また、2015 年度決算報告、および 2016 年度予算案も承認されました。

以下にその資料を掲載します。企画部の活動報告、活動計画は省略します。行事案内、および「しろちどり」各号の探鳥会報告を参照ください。なお、記載は誌面の都合で、適宜省略しています。

2015 年度活動報告

保護部

1. ソーラーパネル問題：

2013 年 9 月に曾原大池でフロート式ソーラーパネルの設置事業が明らかになった。その後、当会は地権者と接触したが、計画の撤回には至らなかった。

12 月 15 日に三重県に対してソーラーパネル設置について規制をかけるよう要望書を渡し、記者会見をした。

2. 鳥類繁殖調査：

バードリサーチの主導による鳥類繁殖調査に会として参加することにし、既定コース、独自コース、随時調査の 3 調査を行うこととした。

既設コースについては会員で手分けした調査登録した。また、ホームページに随時調査の結果の報告サイトを新設した。

3. 木曾岬干拓地チュウヒ繁殖調査

月に一回 愛知県支部、名古屋鳥類調査会と共同で調査している。繁殖は、1 つがいであり、場所も去年の繁殖場所に近いところである。

4. ミヤコドリ越冬調査：

2016 年 12 月 19 日：ミヤコドリ 98 羽、ズグロカモメ 16 羽、コクガン 11 羽

2016 年 2 月 15 日：ミヤコドリ 96 羽、ズグロカモメ 10 羽、コクガン 0 羽

研究部

1. ガン・カモ・ハクチョウ類調査：

環境省から各都道府県に調査指示があり、県が独自予算を立てて、本会がその調査地の大部分を受託して、各調査員様に調査を依頼して実施している。

実施日： 2016 年 1 月 11 日（調査基準日）

調査箇所： 新調査値を含め 186 箇所

調査員数： 32 名（非会員を含む）

調査結果は環境省の HP で閲覧可能である。

HP より「平成 27 年度の調査は、全国の約 9000 地点で総勢約 4000 人、延べ約 14,000 人の協力を得て行われた。全国における観察数は、ハクチョウ類約 68,000 羽、ガン類約 189,000 羽、カモ類 約 1,693,000 羽でした」

2. モニタリングサイト 1000 シギドリ類調査

環境省請負事業としてバードリサーチが春期、秋期、冬季の年 3 時期に実施。県内ではト

一般サイト 鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口 豊津浦～町屋浦 香良洲海岸

コアサイト 安濃川河口～志登茂川河口 雲出川河口五主海岸 阪内川河口

愛宕川から櫛田川河口である。

3. カワウねぐらコロニー調査

三重県からの委託によるねぐらに飛来するカワウの数を調査している。

調査回数：年 3 回（7 月、12 月、3 月）

指定された調査地（17ヶ所）

参加調査員：19 名

編集部

1. 会報しろちどりを4回発行した。

87号 2016年3月5日 24ページ 86号 2015年12月1日 16ページ

85号 2015年9月20日 24ページ 84号 2015年6月20日 20ページ

2. ホームページの充実

コンテンツ(記事・情報)の充実:

「フィールドガイド(探鳥地)」、「三重県で特に重要な鳥類」、「三重県の逢いたい鳥」、「

2016年度の探鳥会」「ギャラリー」「会員向けフォーラム」などを充実させた。

4月より鳥類繁殖調査(随時調査結果の報告サイト)を新設した。

事務局

1. 総会・野鳥講座

2015年5月31日(日) 三重県教育文化会館

2. 理事会

第1回 2015年 5月31日(日) 三重県教育文化会館

第2回 10月24日(日) 三重県立博物館

第3回 12月 6日(日) 安濃町中央公民館

第4回 2016年 3月 6日(日) 津市雲出市民活動センター

3. 平成28年度日本野鳥の会連携団体全国総会

2015年11月7日(土)～8日(日) 東京都内

4. 日本野鳥の会 第23回中部ブロック会議

2015年11月28日(土)～29日(日) 福井県

2016年度活動方針

保護部

ソーラーパネルについては県などへ申し入れ、記者発表などを行い、自然の破壊を少なくするよう訴える。

鳥類繁殖調査については調査を進める

チュウビ繁殖調査は継続し、これまでの記録を発表する。

ミヤコドリ等の越冬調査も引き続き実施する。

研究部

ガンカモ調査、シギ・チドリ調査、カワウ調査を継続する。

編集部

会報「しろちどり」はオールカラーで年4回発行を維持する。

ホームページをツイッター等に対応させる。

事務局

総会 2016年 5月29日(日) 三重県教育文化会館

理事会

第1回 2016年 5月29日(日) 三重県教育文化会館

第2回 8月28日(日) 未定

第3回 11月27日(日) 未定

第4回 2017年 3月 5日(日) 未定

日本野鳥の会 三重 28年度(2016年度)予算書

28年度 自2016年4月1日 至2017年3月31日

単位:円

科目	28年度予算	備考	28年度予算会計区分	
	一般・特別合算		一般会計	特別会計
<事業高>				
支部会費	620,000	2000円×310人	620,000	0
受託収入	907,200	カワウ調査のみ	0	907,200
受取補助金	0		0	0
受取寄付金	10,000		10,000	0
事業高合計	1,537,200		630,000	907,200
事業利益	1,537,200		630,000	907,200
<事業管理費>				
支払調査費	630,000	カワウ調査のみ	0	630,000
雑損費	0	ガンカモ調査なし	0	0
通信費	216,000		145,103	70,897
印刷費	232,000		230,820	1,180
消耗品費	80,000		68,201	11,799
賃借料	0		0	0
会場費	17,000		6,970	10,030
会議費	19,000		16,640	2,360
旅費交通費	406,000	旅行助成、ガンカモ自主調査	349,522	56,478
支払手数料	54,000		22,142	31,858
講師謝礼金	30,000		30,000	0
図書費	5,000		2,050	2,950
諸会費	5,000		5,000	0
雑費	24,000		14,230	9,770
事務費	30,000	カワウ調査のみ	0	30,000
保険料	16,000	カワウ調査のみ	0	16,000
一般管理費合計	1,764,000		890,678	873,322
事業総利益	-226,800		-260,678	33,878
<事業外収益>				
受取利息	500		500	0
雑収入	0		0	0
事業外収益合計	500		500	0
当期純利益	-226,300		-260,178	33,878
<税金等>				
法人税等	73,700		0	73,700
税引後利益	-300,000		-260,178	-39,822

* 一般会計で260,178円の赤字、特別会計で39,822円の赤字、差引税引後利益は△300,000円となる。

今後の探鳥会予定(詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください)

- 7月24日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行! 内容は、4月24日と同じです。
- 8月6日(土) 外城田川ねぐら入り探鳥会
開催地/伊勢市東豊浜町土路(どろ) 外城田川河口
集合/17:00 西豊浜町野依(のよりの)農協駐車場
- 8月28日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行! 内容は、4月24日と同じです。
- 9月4日(日) 写真家・叶内拓哉さんがやってくる!五主探鳥会と講演会と探鳥会
探鳥会開催地/松阪市 五主海岸・大池 集合/9:30 雲出川右岸河口 五主海岸コーナー
講演会場所/ハートフル三雲(予定) 時間/13:30
- 9月13日(火) 海蔵川探鳥会 小雨決行! 内容は、5月10日(火)と同じです。
- 9月24日(土) 多度山タカ渡り探鳥会
開催地/桑名市 多度山3合目
集合/9:00 多度山登山口駐車場
- 9月25日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行! 内容は、4月24日と同じです。

野鳥記録 (2016年02月01日から05月10日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察月日 (2016年)	観察場所(三重県)	雄/雌/などの 区別	記録報告者 名	脚 注
ハイロチュウヒ	2	2月2日	四日市市塩浜磯津漁港	雄1羽、雌1羽	伊藤 敏和	1
トラツグミ	1	2月21日	四日市市北勢中央公園		三曾田 明	2
アビ	3	2月22日	四日市市楠町南五味塚		阿部 裕	3
アビ	3	2月26日	四日市市港霞埠頭沖	不明	横山 真一	4
ワシカモメ	1	3月10日	熊野市新鹿町	成鳥	中井 節二	5
ノビタキ	1	1月6日	名張市蔵持町芝出	雄 越冬	田中 豊成	6
ナベヅル	1	2月29日	松阪市町平尾町の水田	足が不自由	中村 洋子	7
キビタキ	1	4月10日	菰野町三重県民の森	雄 初認	矢田 栄史	8
ヘラサギ	1	4月10日	松阪市獵師漁港北		西村 四郎	9
ハクセキレイ亜種ホ オジロハクセキレイ	1	4月3日	南牟婁郡御浜町市木		中井 節二	10
コムクドリ	2	3月27日	熊野市久生屋町	雌 早い初認	中井 節二	11
ホシムクドリ	1	3月27日	熊野市久生屋町		中井 節二	12
シマアジ	2	4月5日	松阪市曾原新田	成鳥 雄	天花寺 美和子	13
ムネアカタヒバリ	1	4月17日	南牟婁郡御浜町市木	雄の夏羽	中井 節二	14
コムクドリ	300+-	4月18日	三重県熊野市久生屋町		中井 節二	15
ギンムクドリ	1	4月18日	熊野市久生屋町	雄	中井 節二	16
ツバメチドリ	1	4月19日	熊野市有馬町		中井 節二	17
ツバメチドリ	3	4月22日	御浜町市木		中井 節二	18
ノスリ	1	4月29日	御浜町志原	この時期珍しい	中井 節二	19
ツメナガセキレイ亜 種マミジロツメナガ セキレイ	4	5月5日	御浜町市木水田		中井 節二	20
カラムクドリ	2	5月5日	御浜町志原	雌	中井 節二	21

注:

- 1: 写真は2月3日に撮影したもので雄ですが、朝は雌も飛んでいました
- 2: 2016年3月27日まで確認
- 3: 翌23日にも同じ場所で確認された、写真はそのときのもの
- 4: 2羽は遠く離れていたが、1羽は岸壁近くのカムリカイツブリに混じていた。2月22日に鈴鹿川派川河口付近で観察された3羽と同一個体と見られる
- 5: 初列風切が、背中の色と同じだった、あまりいかないところでしたが、途中寄道して見つけました
- 6: 発見当初この寒い名張で越冬できるのか心配でしたが、約2か月間滞在しました。ノビタキを冬季見たのは初めてでした
- 7: 足が不自由であった(平井代理報告)
- 8: 早朝の森を観察、さえずりで気がつき姿をみつけた、今季初認
- 9: クロツラヘラサギが来る頃ですが、ヘラサギでした
- 10: 過眼線が無く顔が白かった、ハクセキレイの5羽くらいの群れの中にいました
- 11: ムクドリの子を見ていると小さいムクドリがいました、こんなに早い初認は初めて
- 12: 嘴だけは少し夏羽になりかけて黄色かった 2016年1月7日見て以来でした、たぶん越冬していたと思われる
- 13: 代理投稿(安藤宣朗)
- 14: 同定は、胸が赤いのとチーチーと鳴いていたから
- 15: 数が、300羽+-いました、画像は300羽ありませんが、近くでたくさんありました。
- 16: コムクドリの中で1羽いました、頭が白かった
- 17: 有馬で1羽いました、御浜町志原でも3羽いました
- 18: 朝見に行くと3羽いました、本日5月3日も市木でツバメチドリが、1羽いました。
- 19: 4月29日この時期の記録は珍しい
- 20: 喉から腹にかけて黄色く足は黒かった、今年はツメナガセキレイの多い年でしょうか?いつもだと来ても1羽しか見れませんが、今年は5月9日1羽市木で見えています、それを入れると6羽目です
- 21: コムクドリと同じくらいで、目が白かった、コムクドリとともに、さくらんぼをつまんでいた



トラツグミ 三曾田 明 撮影



アビ 横山真一 撮影



ワシカモメ 中井節二 撮影



ノビタキ 田中豊成 撮影



ハクセキレイ 亜種ホオジロハクセキレイ
中井節二 撮影



ヘラサギ 西村四郎 撮影



ギンムクドリ
中井節二 撮影



シマアジ 天花寺美和子 撮影



ムネアカタヒバリ 中井節二 撮影

ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、タケリ、シロチドリ、ハマシギ、チュウヒ、ハイタカ、ノスリ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、カワガラス、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリン、カワラバト
計38種

風が強くて、車から降りるのがつらい探鳥会でした。最初からチュウヒが現れ、長い間飛んでくれました。集会所付近では、ノスリやハイタカが飛んでいました。

● 安濃川河口探鳥会

2016年2月14日(日)10:00~12:00

津市高洲町 安濃川河口

杉村滋弘 岡 八智子 参加者22名(会員15名)

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、オオバン、ケリ、ミヤコドリ、イソシギ、ミユビシギ、ユリカモメ、ウミネコ、シロカモメ、オオセグロカモメ、ミサゴ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ、カワラバト 計36種

昨夜からの雨が何とかあがって、2組の親子の参加も得て合計22人で楽しい探鳥会となった。

ミヤコドリ93羽、シロカモメを含むカモメ達やカモ類沢山、カイツブリ類等を中心に36種の探鳥会ができて、皆さん満足して帰っていただいた。

● 五十鈴公園探鳥会

2016年2月21日(日)10:00~12:00

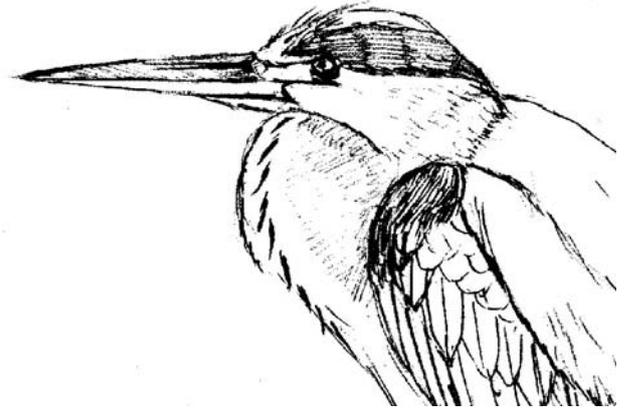
伊勢市 五十鈴公園

高木正文 参加者18名(会員14名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、コサギ、イソシギ、トビ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、トラツグミ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、アオジ、カワラバト
計32種

所期の目的のトラツグミ、カワセミ、ノスリ、イカルに会

えた。また、市町村対抗駅伝のランナーにも会えた。ただ一つ残念であったのは、今シーズン初渡来の「ウミアイサ」に会えなかった。



アオサギ

● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年2月28日(日)9:00~11:20

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者29名(会員10名)

オカヨシガモ(44)、マガモ(4)、カルガモ(30)、ハシビロガモ(50)、コガモ(84)、ホシハジロ(10)、キンクロハジロ(6)、カイツブリ(4)、ハジロカイツブリ(3)、キジバト(8)、カワウ(40)、アオサギ(4)、ダイサギ(2)、オオバン(4)、タゲリ(2)、ケリ(20)、クサシギ(2)、イソシギ(5)、ユリカモメ(1)、カモメ(1)、セグロカモメ(1)、ミサゴ(1)、チュウヒ(2)、カワセミ(1)、モズ(2)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(50)、ヒバリ(30)、ヒヨドリ(25)、ウグイス(1)、メジロ(30)、ムクドリ(20)、シロハラ(1)、ツグミ(50)、ジョウビタキ(4)、スズメ(100)、ハクセキレイ(10)、セグロセキレイ(2)、タヒバリ(1)、カワラヒワ(5)、ホオジロ(15)、アオジ(2)、オオジュリン(5)、カワラバト(90) 計44種

天気にも恵まれ、たくさんの方が参加してくれました。

タゲリやタヒバリ、カモ類など冬の鳥は3月には多くが見られなくなります。留鳥も含めて、44種を観察できました。

● 石垣池探鳥会

2016年3月6日(日)10:00~11:30

鈴鹿市石垣町 石垣池

市川美代子 近藤義孝 参加者19名(会員10名)

ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ユリカモメ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ム

クドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリン 計25種

市の広報に掲載していただきましたので、会員外の方が9人来てくれました。

12時までの予定でしたが、11時30分頃パラパラと小雨になりましたので、早めに終わりました。オオジュリンがアシ原にいるのを帰る時見ることができました。会員外の方、楽しんでいただけたかな。

● 海蔵川探鳥会

2016年3月8日(火)9:45~11:45

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者11名(会員10名)

キジ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、バン、オオバン、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、アオジ、カワラバト 計27種

今年度最後の探鳥会。一気に春に突入したように気温が20℃くらいまでグングン上がり、少々汗ばむ位でした。

開始早々からカワセミがお出迎えしてくれて幸先の良いスタートがきれました。水面にはここでは珍しいホシハジロがキンクロハジロと一緒にエサを採っていました。その背後ではウグイスのさえずりが聞こえ、上空ではヒバリがさえずり、冬と春の使者の交代劇を見る事ができました。カワセミは繁殖期に入ってきたので、オスとメスのペアがチー・チーと甲高く鳴きながら追っかけていました。今年はまだツバメを見る事が出来ませんでした。

春本番がもうすぐそこまできている事を感じさせる1日でした。

● 津・偕楽公園探鳥会

2016年3月13日(日)9:30~11:30

津市広明町 津偕楽公園

石原 宏 大西幸枝 参加者19名(会員15名)

キジバト、アオサギ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ビンズイ、カワラヒワ、シメ、イカル、アオジ 計18種

想定した鳥たちはほぼ現れましたが……。天気も良く、公園の中心部はやはり人出も多く、屋台準備の工事もあり、公園の周辺部での探鳥となりました。

● 安西英明さんとバードウォッチング

2016年3月20日(日)13:30~15:30

四日市市西村町 北勢中央公園

安西英明 日本野鳥の会三重 参加者40名(会員33名)

ヒドリガモ、カルガモ、ホシハジロ、キジバト、トビ、オオタカ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ 計23種

風が強い日でしたが、研修会参加者と一般参加者を合わせて約40人が集まりました。

今回は特別企画として、東京より公益財団法人日本野鳥の会の名物講師安西氏をお招きしての探鳥会。安西氏は野鳥の識別だけにとどまらず、野鳥のエサとなる昆虫や植物などの視点からも野鳥の世界をご紹介していただきました。参加者の皆さんは、安西氏の卓越した話術と自然についての豊富な知識に驚かされていました。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年3月27日(日)9:00~11:20

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者23名(会員12名)

キジ(1)、オカヨシガモ(9)、マガモ(6)、カルガモ(14)、ハシビロガモ(34)、コガモ(79)、ホシハジロ(13)、キンクロハジロ(3)、スズガモ(1)、カイツブリ(4)、キジバト(4)、カワウ(30)、アオサギ(6)、ダイサギ(2)、コサギ(1)、オオバン(4)、ケリ(9)、コチドリ(2)、イソシギ(3)、カモメ(5)、ミサゴ(2)、チュウビ(2)、ノスリ(1)、モズ(4)、ハシボソガラス(100)、ハシブトガラス(50)、ヒバリ(10)、ツバメ(3)、ヒヨドリ(4)、ウグイス(5)、メジロ(1)、ムクドリ(5)、シロハラ(1)、ツグミ(10)、ジョウビタキ(2)、スズメ(25)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(2)、タヒバリ(5)、カワラヒワ(10)、ホオジロ(6)、アオジ(1)、カワラバト(44) 計43種

まだ、残っているカモ類がたくさん見られました。ツグミやタヒバリも観察できました。木曾岬干拓地では、

チュウヒ・ノスリ・ミサゴがいました。種類は 43 種と多くいたのですが、小鳥などの羽数は少なく、「あまりいないね。」と話しました。



カワウ

● 篠田山探鳥会

2016年3月27日(日)9:30~11:30

松阪市久保町 篠田山斎場

中村洋子 宮田たつ 参加者13名(会員12名)

カルガモ、キジバト、アオサギ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ジョウビタキ、ビンズイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、コジュケイ 計21種

暖かい日差しに恵まれ、たくさん小鳥が出てくれました。

集合場所の駐車場で、ヒノキの中にたくさんのイカルがいましたが、枝や葉で見づらかったのが残念でした。ウグイスはあちらこちらでさえずっていました。

● 五主探鳥会

2016年4月9日(土)9:30~11:30

松阪市 五主海岸・大池

西村四郎 小野新子 参加者23名(会員20名)

オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ケリ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、タシギ、オオハシシギ、ツルシギ、アオアシシギ、イソシギ、ハマシギ、ユリカモメ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、チュウヒ、ノスリ、ハシボソガラ

ス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、セッカ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計50種

本年度は大池(南)にフロート式ソーラーパネルが設置された後、初の探鳥会となりました。

大池(南)にたくさんいたセイタカシギはいなくなり淋しくなりましたが、大池(北)にはツルシギやオオハシシギは例年通り姿を見せています。時期が少し早く、まだ夏羽はみられませんでした。

あるのが当たり前だった貴重な自然がなくなるのは残念なことで、常日頃から自然を守ることを考えていくことが大切であると痛感します。

● 五十鈴川上流探鳥会

2016年4月16日(土)6:30~8:30

伊勢市 五十鈴川上流

杉原 豊 中西 章 参加者19名(会員12名)

キジバト、カワウ、アオサギ、トビ、サシバ、コゲラ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、キビタキ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ 計21種

例年と同じく新緑が美しくカジカガエルの声が響く五十鈴川沿いを、宇治橋より2kmほど上りながら夏鳥を探して歩く。

しかし、キビタキ(声のみ)サシバが見られたが、オオルリは見られなかった。

地元エリア紙に参加案内が載り、会員外7名の参加があった。

● 志原川及び水田探鳥会

2016年4月17日(日)開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年4月24日(日)9:00~11:20

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者16名(会員10名)

キジ(4)、オカヨシガモ(8)、カルガモ(6)、ハシビロガモ(8)、コガモ(20)、ホシハジロ(1)、キンクロハジロ(3)、カイツブリ(6)、キジバト(6)、カワウ(116)、アオサギ(9)、ダイサギ(5)、チュウサギ(1)、コサギ(1)、オオバン(1)、ケリ(15)、コチドリ(3)、ホウロクシギ(2)、イソシギ(2)、ユリカ

モメ(1)、コアジサシ(2)、ミサゴ(2)、チュウヒ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(100)、ヒバリ(20)、ツバメ(10)、ヒヨドリ(1)、ウグイス(5)、センダイムシクイ(1)、メジロ(1)、セッカ(15)、ムクドリ(20)、シロハラ(1)、ツグミ(20)、スズメ(50)、ハクセキレイ(1)、カワラヒワ(3)、ホオジロ(4)、カワラバト(50) 計41種

繁殖期に入り、鳥たちのさえずりが聞こえてきました。水田にホウロクシギが2羽入っていました。

● 関・観音山探鳥会

2016年4月27日(水)10:00~11:30

亀山市関町 観音山

岡 八智子 伊藤 多紀子 参加者12名(会員11名)
コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、コジュケイ、カワラバト 計19種

今にも雨が降りそうな曇り空・平日の為か参加者が少なく鳥もあまり出なくて残念でした。

クロバイ・マルバアオダモ・トウカイコモウセンゴケ等植物も観察しました。



オオルリ

● 県民の森観察会

2016年4月30日(土)9:30~11:40

三重郡菰野町千草 三重県民の森

矢田栄史 阿部 裕 参加者17名(会員14名)
キジバト、サシバ、コゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、キビタキ、オ

オルリ、スズメ、カワラヒワ 計18種

おめあての夏鳥はキビタキ、オオルリ、サンショウクイ、サシバの4種。いずれも姿も確認できた。キビタキとサンショウクイは例年以上に個体数が多い。エナガは声が徐々に近づいてきて、ファミリーで登場。ヒナもかなり大きくなっていて、親からエサをもらうときも羽根をふるわさなくなった。

編集後記

今回編集を笹間俊秋氏と三曾田 明氏が手伝ってくれるようになった。それを機会に編集ソフトを「一太郎」から「Microsoft Word」に変えた。変えたはよいが、皆目使い方がわからない。通常の文章を打ち込み、書類を作るのはいやというほど使っているのだが、雑誌の編集となると、カットを入れる。段組を1段、2段と入れ替える。使い方がかなり違う。手順が分からない。下手にいじるとレイアウトがめちゃくちゃになる。それも数ページ前までぐちゃぐちゃになる。途中で何度もなげだしたくなった。

使い方がうまくなっても、所詮人の考えたソフトをいじっているだけ、他人の手のひらで踊っているようなもの。絵画や彫刻のような創造性のある仕事ではない。かといって鳥を見るような自然現象の発見があるわけでもない。なんの喜びもない。それでもなんとか八分通りはできた。細かい点は不満だらけだが、なんとか見られる体裁まではなったのではないかと思う。(M.H.)

しろちどり 88号

2016年6月10日発行

題 字:濱田 稔

表紙絵:西村 泉

カット:平井正志

編 集:平井正志・笹間俊秋・三曾田明

発行所:日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

<http://miebird.org/>

印 刷:株式会社プリントパック

617-0003 京都府向日市 森本町野田 3-1